

佐土原 R C

週報



国際ロータリー第2730地区
佐土原ロータリークラブ
例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
例会場 ホテル神宮寺 0985-73-0015

この幸福は人助けから
Real Happiness is Helping Others

ロータリーマガジン月間

1993.4.30(金) 第267回例会
1. 点鐘
2. ロータリーソング「ロータリーライフ」
3. 「四つのテスト」唱和
4. 食事
5. 会長の時間
6. 幹事報告
7. 各委員会報告
8. 会員増強フォーラム
9. 点鐘

第266回例会記録 (1993.4.23)

会長の時間 代理副会長 児玉武文
皆さん今日は、本日は第266回例会です。

岩切会長が急用のため少し遅れられますので、

私が代理を務めさせていただきます。

4月18日(日)に石崎浜荘で佐土原ライオンズクラブ創立25周年記念式典が開催され、岩切会長代理として私が出席しました。

当日は後藤町長、橋町議会議長、小野町教育長、広瀬警察署派出所長はじめ関係者200名が出席し、同クラブの発展を心から祝福いたしました。現会長は郡司眼科医師で、ご挨拶の中に「継続は力なり」と力説しておられました。

チャーターメンバーでは、高山正己医師だけが残っていられるとのことでした。

同クラブは、創立10周年、15周年、20周年ごとに、150万円から300万円を社会福祉奉仕のために寄付しておられ、今回もボイスカウト・ガールスカウトへの助成金として300万円を寄付されるということです。私どもには

もには容易にできることで、敬服のほかありませんでした。

次に、最近読んだ本で感銘したことをお話ししてみます。

その1冊は、丸谷才一著『女ざかり』です。主人公の女性論説委員を通じて、我が国における「贈り物の哲学」を考えさせてくれます。

盆暮れの贈答は何なのか、選挙における買収や利益誘導と有権者の投票行動も、贈答に類するものではないか、義理人情もつきつめれば貸し借り勘定の理論に帰するのではないか、と問うています。

また、日本の政治の最高価値は「和」であり、これは世界に例がない。「和」は利害調整で維持される。そこには、近代民主主義の「個」は埋没し、「集団」が優位に立つ。日本におけるリーダーシップとは調整能力を指すのである。

外国人が、日本人は不可解と言うのは、このようなことを知らないからであろう。

我が国の政治の暗部をドラマを通して訴えています。

もう1冊は、バルブ経済の破綻とともに、ベストセラーとなりました「清貧の思想」(中野孝次著)です。

西行、兼好、光悦、芭蕉、大雅、良寛など清貧(清く貧しく美しく)に生きた人々の系譜をつぶさにたどり、われわれは今いかに生きるべきかを改めて問い直しています。

著者は、日本には、現世での生存は能う限り簡素にして、心を風雅の世界に遊ばせることを

事務局〒880-0303 宮崎県宮崎市佐土原町大字西上那珂5632 (有)藤堂産業内☎0985(74)2562
会長 岩切正司・副会長 児玉武文・幹事 藤堂孝一・会計 柳田光寛・会報責任者 重水敏雄

最も高尚な生き方とする文化の伝統があった。それが、大量消費社会の出現、資源の浪費など別の文明によって現在の地球破壊が起ったのであるなら、それに対する新しい文明社会の原理は、われわれの先祖の作りあげたこの文化、「清貧の思想」から生まれるであろう、と喝破しています。

幹事報告 藤 堂 孝 一

例会変更通知

- *都城北RC 5月 4日 休会
- *都城西RC 5月 5日 休会
- *都城中央RC 5月 13日 19:00

出席報告 委員長 神宮寺 利 夫

会員数	16名
欠席者数	2名
H.C出席者数	14名
出席率	87.5%
欠席者名	齊藤・岩下

ビジター

- 西都RC 岩切 畏君
- 宇治野 稔君
- 河野 謙二君

☆ビジター卓話を、岩切君（西都RCも会員増強には苦労している）、宇治野君（火葬場で夫の遺骨を残らず収納した妻、夫婦の絆はかくあるべしと感動）にお願いしました。

会員卓話 濱田 松太郎君

私事で恐れ入りますが、昨年10月、孫の運動会を行った時、突然歩行が困難になり、2~3分休むとまた歩ける間歇跛行（腰部脊柱管狭窄症）の状態になりました。その後幸い養生の甲斐があって、どうにか今年になって快方に向かいいつありましたところ、「弱り目にたたり目」と言いましょうか、2月中旬に自動車の追突事故に遭いまして、むち打ち症で約40日間入院することになりました。

入院中は、皆様から心温まるお見舞いとお励ましのお言葉をいただき、また、ニューギニア、インバチエンスの見事なお花までいただきまして、佐土原ロータリー・クラブの友情に対し謹んで厚くお礼を申し上げます。

ところで、本日は、私が実際に体験した腰病について少しばかり申し上げ、皆様の参考に供したいと存じます。

人間の体は、四本足の動物と違って、二本足だけで立っており、体重の60%を支えていると言われる腰部は、ある年齢に達すると構造的な理由により、一層大きな負担がかかるようになります。

腰部は、動くことを基本に設計された、人体という精巧なメカニズムの蝶番の重要な役目をしています。それだけに、腰病が、直立歩行を始めた人類の、いわば宿命病とも言われているのもうなづけるところです。

そして現代は、「車社会」、「運動不足に飽食」、「柔らかいベッドに椅子との生活」、限りなく便利さも増し、“蝶番”としての腰は鍛えられるどころか、ストレス耐性も弱る一方で、老齢化が進むにつれて腰病は文明病として将来増加の一途を辿るものと憂慮されます。

長時間同じ姿勢をとること、長距離運転をすることなどは、腰に大きな負担がかかりますから十分注意しましょう。

長生きをする人は、必ずといってよいほど早起きである。午後12時前の1時間の睡眠は、それ以降の2時間分に相当する。これは言い古るされているが正しい格言である。

2、3時間遅らせるより、いつもの夕食時間に食事した方が食べたものがスムースに消化される。

「時は金なり」、青年にとどめ老人にとつても、時間は、精神的向上のためにも値をつけられないほど貴重なものである。特に朝の時間は非常に貴重である。

(W. A. オールコット)